

学会長挨拶

高知女子大学看護学会会長 山 崎 智 子

皆さん元気そうなお顔を見せていただいて、ありがとうございます。大勢の卒業生の皆様にお会いできる日を楽しみにしておりました。県外からもだいぶん里帰りして来られているようですね。今年は、1年中で一番暑いこの時期に、また8月の学会を7月にということになりましたのも、これは大学の学期制との関係で、この時期でないとどうも学会を開くことが出来ないということになりました。しばらくはこの時期に定着していこうと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

今年は、発足以来22回目を迎えることになりました。卒業生の数は、876名になったそうでした、学会員の数も523名、ということです。約60%の卒業生が入会しているということで、着実に充実発展してきているという思いがいたしております。ここまで成長いたしました、元をただせば和井先生が蒔かれた一粒の種子があったからこそあると思います。和井先生と申しまして、ピンとこない世代も増えてまいりました。和井先生は今年7回忌でした。満6年になったわけですね。時の早さというものを感じております。ここまで発展してきたということ、和井先生もきっと喜んでおられること、お互いにも喜び合いたいと思います。これもやはり卒業生の皆様方のご支援に負うところも大きいと思います。また、一方年々の運営委員の皆様のご努力によるところも大きく、大変感謝をし、ありがたく思っております。研究発表にしましても、皆様方のお手元に届いておりますように、演題が出揃うようになりました。一時期のように、叱咤激励、電話で…なんていう時期も過ぎまして、ほぼ自発的に集まってくるような時代を迎えるようになり、喜んでおります。そして、今日のこの学会の日に合わせた計画でもって、研究に取り組んでくださっていること、嬉しく思っております。そして、また、明日のシンポジウムは、看護の質の問題、メインテーマとして質の問題を取り上げておりますけれども、明日はそれこそ新進気鋭の方々をお招きして開催されることになっております。また、例年は公開にしておりますけれども、今回は、一般の専門職の方々にも聞いていただくということになり、明日を予定しております。どうぞ活発な討議が展開されますように、期待しお願いいたします。

看護界は、皆様方も理解しておられる通りに、もう激動、激変のただ中にございます。これは高知女子大学看護学科も例外ではございません。こうした中、平成10年には、遅ればせながらも、看護学部、そして大学院と、皆さん一丸となって努力をしてくださっているところでございます。

女子大はこの4月から新しい学長、成田先生をお迎えいたしております。今日もお越しくださっているわけですが、こんなところから大変恐縮に存じますけれども、高知女子大学看護学科が日本における大学教育第一号であるその名にふさわしい機能をもって再出発ができますように、どうぞ今後とも、ご尽力いただきたくよろしくお願いいたします。それでは、卒業生の皆さん、どうぞこれからも、女子大の発展のために、さらに大きな力をかしていただきたいということをお願いして、ご挨拶にさせていただきます。